

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100231		
法人名	社会医療法人 健友会		
事業所名	グループホーム星取		
所在地	長崎県長崎市星取2丁目2-43		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成30年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「星に手がとどく程夜空が美しい」と例えられる町、星取。ここは丘の上にある住宅地で入居者様9名は地域自治会の会員として暮らしている。所帯は入居者様9名・職員9名。2階建ての2階部分に居住、日当たり良好で冷暖房・床暖房完備、1階は通所デイで一緒に行事を行ったり賑やかです。地域自治会での夏祭りや敬老会、バザー等催し物にはご家族様と一緒に参加し交流を楽しんでいる。日常生活は入居者様・ご家族様の希望に添い、ご自分のペースでゆったりと安心して過ごしていただけるよう支援、また毎月入居者様の日常の様子をおたよりとしてご家族様に提供、写真を添え介護の状況や日々の様子をお伝えし好評を得ている。ご家族様の協力のもと外出し四季を楽しみ、体調不良により外出できない方にも近所を散歩したりと個別の対応にも力を入れている。医療では内科往診、歯科往

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域活動、住民との交流を積極的に取り組んでいる。流しソーマン用の竹や新聞紙など提供があり、普段から声を掛け合っている。ホームも、地域高齢者の様子を聴き、民生委員などにアドバイスをしている。地域との相互関係が確立している。家族には、毎月、個別の写真入り便りを郵送し、早めの行事予定案内で家族参加が多い。居室には介助方法を掲示し、面会家族も利用者に容易に介護に関われる工夫がある。また、家族と交換ノートを活用し、信頼関係強化が窺える。職員は利用者の言葉や様子を見逃さず、わかりやすく青字で記録し、共有して介護計画へ繋げている。今回、個人情報解りやすく「緊急時情報提供書」として1冊にファイリングし、夜勤職員の不安軽減と利用者・家族の安心へ繋げている。家族・地域・職員の三者がチームとなって、利用者は見守られその人らしい生き方を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム星取
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所内・居間に掲示し、職員は業務の中で理念を意識しながらサービスの提供が出来るように努めています。	理念はホーム内に掲げている。職員アンケートを実施し、全職員で理念を振り返っている。利用者の介護度が上がることに合わせて、心身の状態変化に応じた支援を行うために、職員は初心に戻り、理念を再認識・共有し、利用者が、今まで通り穏やかに生活できるよう支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会班会には管理者が毎回代理として参加。地域の行事の準備の際は参加し手伝い、行事にはご家族と共に楽しみ交流を図っている。おたよりは近隣14件に毎月配布。	全利用者が自治会に加入している。管理者が会合参加の折、ホーム便りを配布している。地域から祭りへの招待や敬老会の贈答品が届き、またホーム主催の敬老会や忘年会に招待する等双方向で交流がある。住民から古新聞やハンドタオルが届く等、自治会長を通じ地域と繋がりがあがる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にはお便りを配布、『相談等気軽にお越しください。』と案内している。運営推進会議では皆様の様子を報告、取り組みを発信している。地域からの相談があったら包括センターや他施設等を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の取り組みを報告。防災については実際に参加して頂き貴重な意見をいただいている。昨夏よりホームは西日が強いだろうと熱中症のご心配の声をいただき、遮光カーテン設置につながった。	併設法人施設と合同で、年6回、規程のメンバーで開催し、利用者状況や行事予定、報告の他、意見交換を行っている。災害訓練での地域住民の貴重な意見や助言をもとに、マニュアルの見直しを行ったり、建物の点検整備や西日対策のための遮光カーテン設置へと繋げた反映例が多くある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームのおたよりの送付、運営推進会議での情報交換、一人暮らしの方の情報、相談等連携している。市介護相談員の訪問の協力もを行っている。	利用者の書類手続きで、担当課を訪れている。介護保険担当職員とは、運営推進会議にて地域の独居高齢者の情報交換を行っている。その他、運営上不明な点を気軽に尋ねている。介護相談員は、2名受け入れている。行政からの研修案内は、法人やホームへ届き、適時参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束をしない』ホームの方針はスタッフひとりひとりに定着、日常生活の中で入居者様が安全に笑って暮らしていただけることを考えケアを行っている。施錠はしていない。転倒防止のため4点柵使用の入居者様についてはご家族了承のもと、市へ定期的に報告を行っている。	身体拘束をしないケアの内部研修している。言葉による拘束についても周知している。職員は、お互いのケアについてフォローしている。ベッド柵使用例はあるが、カンファレンスを実施し必要性について、確認、規程の手続きを行っている。日中施錠は無く、利用者は自由に活動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については グループホーム協議会や系列研修会で学ぶ機会があり 学習し全スタッフにフィードバックしている。12月も研修予定。		

グループホーム星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深め、利用者 の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解と納得をしていただいた上で契約して頂き不安や疑問点も 遠慮なく聴ける環境づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族・地域の皆様の意見や要望は面会時・運営推進会議等あらゆる機会に伺い運営の反映に生かしている。(行事・防災・生活面等)	家族や利用者の意見や要望を汲む体制を説明している。家族訪問時や電話・メールで利用者の様子を伝えながら、要望がないか尋ねている。毎月ホーム便りや家族会も実施している。家族からの要望は、ケア内容に反映しており、利用者の日中の過ごし方、入浴や外出などの事例がある。特に外出は、個別支援が増えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見・提案を聞き、カンファレンスで反映させている。事業所の運営他報告・資料は職員全員が閲覧できるようにしている。報連相ノートを活用している。	月末のケアカンファレンス時や朝の申し送り時に、職員は意見や提案している。普段からも話しやすい雰囲気である。また、報連相ノートも活用している。管理者は、年2回三者面談している。育成面接シートを活用し、個人目標を確認している。希望シフトや必要備品の購入など、職員が働きやすい環境整備に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は介護職自体が低い水準にあり頑張りに見合っていないと考える。今後も国の施策に訴えると共に、やりがいのある職場になるよう、適切な残業等の手当て・福利厚生・公休・年休は希望を最大限に受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は随時希望が出せるようにし参加を保障している。法人の新人・中堅・リーダー等の各研修にも常に参加。研修報告はカンファレンスでフィードバックし共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会に参加、担当者を中心に研修会や懇親会にて交流している。昨年度はBブロック長を任命された。法人内でも介護部会を通して交流、事例報告等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談、生活歴や心身の状態等の情報を把握する。また本人のペースに合わせて話を聞き、状況を理解し安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約前、契約時に家族に見学していただき話し合う時間を作り要望・希望等を聞く様になっている。 家族が要望や相談しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前まで受けていたサービス関係者からの報収集やご家族・本人との面接、センター方式作成などから必要なサービスを見極め随時話し合い提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や援助をするだけでなく、本人の能力に応じた家庭でしていたであろう家事(洗濯物干し・たみ、こめとぎ等)に参加していただける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで本人の状況をお知らせし、面会時やプランの説明時、意見を聞きながらケアを検討している。行事での外出、病院受診などご家族様の協力は多大である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には毎回行事のお誘いをして参加をいただいている。知人・友人の面会時は記念に写真を撮るようになり、後日ご家族の面会があったことをお知らせしている。	利用開始時に、本人や家族から生活歴を聞き取り、センター方式の書面を活用している。家族や知人の訪問は自由である。家族などの訪問時には、職員が写真撮影し、利用者の思い出作りをサポートしている。馴染みの理美容や自宅への帰宅などは、家族の協力を得ている他、家族へ年賀状を出すなど、人との関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間での座る位置等を考え利用者同志で会話が出来る様に配慮している。また、状況に応じ職員が間に入る等し孤立しない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に訪ねて頂いたり、相談を受けるなどの体制作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言動・様子から気持ちを読み取るようにし、ご家族にもお聞きしながら希望、意向の把握に努めている。また、ケアカンファレンスを行い、職員間で入居者本位のサービスが提供できているかなど検討している。	リビングや入浴時などで、何気なく発せられた利用者の言葉を拾い上げ、職員の返答も記録し、ケアカンファレンスにて利用者の真意を検討している。表出困難な利用者の家族からも情報を得て、食の増進に繋げた例がある。記録書式を青字記載に工夫し、職員共有して利用者の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係事業所から情報提供を頂き、生活の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月1回入居者様全員のケアカンファレンスを行い、ひとりひとりの状況を共有し、アセスメントの見直しに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の状況・状態をスタッフ全員が共有し、話し合っただけで計画に反映させるようにしている。またご家族にも話を聞いたり、主治医の指導も取り入れている。	利用開始前の情報をもとに、暫定プランを作成している。1・2ヶ月状況を見極め、長期6ヶ月、短期3ヶ月の介護計画を作成している。面会時や利用者の日常の状況変化に応じ、家族の意見、要望を聞き、計画に反映し、了承を得て実践している。今回、楽しみごとの意向に視点を置き、書式変更し、取組み始めたところである。	利用者の楽しみごとを計画に反映させることで、張り合いや喜びを持って、生活できるよう、個別支援が際立つ取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づき等は申し送りノート(報連相ノート)を活用、ケアの統一を図ると共に介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望や家族の希望等出来る限り対応する様努力している。		

グループホーム星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者全員が個別に自治会に加入しており、自治会催しの行事等に参加。ホームでの行事には自治会や地域の皆様にも参加・ご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は上戸町病院主治医が毎週1回、月2回の訪問歯科往診あり(症状に応じ毎週往診あり)。ご家族へは医師・ホームから報告、電話等で情報提供を行っている。耳鼻科・皮膚科等は外部病院にご家族付き添いで、緊急時はご家族了承の元、スタッフが支援を行っている。	利用者家族の希望優先とする。現時点では、全利用者が法人医療機関の週1回と月2回の歯科往診を受けている。専門科受診は、家族対応であるが、職員が対応することもある。受診結果は、報連相ノートで職員共有している。家族にも同様に報告している。緊急時情報提供書を見直し、夜間緊急時体制を更に確立した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤。介護士はふだんからカルテに状況を記載し、薬や症状への対応の仕方を都度看護師に相談し連携を深め介護にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先に情報提供を行い、定期的にお見舞いし情報交換を行っている。定期往診や受診時も情報提供をし、日頃より関係構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行い、理解していただいている。ご家族・本人の望む終末期を迎えられるよう支援し、重度化・終末期になった時は再度ご家族と話し合いの場を設け対応している。	利用開始時、家族に、「看取り介護について」「事前確認書」を基に説明し、2枚の同意書を得ている。その後、利用者状況の変化に合わせ、主治医の指示を仰ぎ、更に「終末期ケアについて」の同意書を得ている。訪問看護師と連携を図り、家族へも協力を依頼し、本人・家族の思いに沿う終末期を迎えられるよう、全職員で支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し常日頃より確認している。AEDも設置、使用法・心臓マッサージ等の学習会も開催、参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に消防訓練を行い、避難経路や自動通報装置の使い方などを再確認している。また、自治会や地域の方などにも訓練の参加を呼びかけ協力をお願いしている。	年2回、夜間想定、消防署立会い、地域住民参加の火災訓練を実施しており、隣接空き家出火想定も予定している。毎月、通報、避難自主訓練を実施し、抽出した反省は次の訓練へ繋げている。自然災害は、消防署や地域住民の協力を確認している。また、地域住民の避難場所でもある。非常持ち出し品や備蓄は3日分を完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、尊厳を傷つけないよう、また上から目線にならないよう心がけている。	職員は申し送り時に、利用者名をイニシャル、支援内容をドイツ語を活用し、利用者の誇りを損ねないよう工夫している。利用者への声掛けは寄り添い、耳元で声を掛けている。失禁など失敗時も、さりげなく介助している。個人情報とは所定の場所に保管し、職員も守秘義務について周知している。写真使用、便り配布の承諾も取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話だけでなく、表情、しぐさからも読み取る洞察力を養うと共に入居者様が上手く自分の思いを話せるような言葉かけや、常に選択する事ができるような声かけにて自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見る方、居室で過ごされる方、テーブル自席で過ごされる方等、各自落ち着ける場所で本人が望むように過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様より季節に合った本人のお気に入りの洋服等を持参していただき、外出・行事にはおしゃれをして参加して頂いている。出張美容室をお願いし、髪を整える事ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやおにぎりを握ってもらう等入居者の能力に応じて一緒に食事作りを楽しんでいる。入居者の嗜好を聞き、外食の機会も提供、普段食べられないものも楽しんでいる。	食事は配食業者を活用している。利用者の満足度、職員・家族の試食から、業者を変えた経緯もある。嚥下に応じ、ミキサーやとろみに対応している。おやつ作りや稲荷寿司など、利用者も手伝っている。季節行事メニューは、職員が担当している。職員手作りのおせちを振舞った。外食も企画し、食事を楽しむ取組みを職員は実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量を記録し把握。水分が摂れていない、また食事がすすまない方については好みの飲み物や栄養補助食品等を利用するなど工夫して、また主治医とも相談しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをして頂いている。出来ないことはスタッフが手伝いに入り口腔内をチェックする等支援を行っている。自立にて口腔ケアの難しい方には、口腔ケアスポンジを使用して残渣物を除去するなどしている。		

グループホーム星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを使用し排泄パターンをチェック、時間毎の声かけを行う事で自立を支援している。排泄の意志を伝える事が出来ない方は、表情やしぐさを読み取りトイレへの誘導をしている。	24時間シートを活用し、排泄パターンを職員は把握している。日中は、トイレでの座位排泄支援である。利用者が自分でしたいという気持ちを大切に、本人ができることや必要な介助を、職員は実践している。自立支援の一環として、ポータブルトイレを利用することもある。また、パッド類の当て方、種類を検討し、負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂っていただくように支援。腹部・肛門部のマッサージ、摘便を行い便秘対策を行っている。食事で皆さまあまり好く嫌いもなく、野菜繊維類を摂られている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日入浴。入浴前に声かけを了承を得るようにしている。時には便失禁の保清や医師の確認の取れない方もおられ、一部、職員側の都合である場合もあり。	冬は週2・3回を目安に、夏は隔日の入浴日である。車椅子や介護度の高い利用者も、浴槽に入っている。入浴時の様子は、個人記録に記録している。柚子湯やしょうぶ湯を提供している。職員は、利用者のできないところを介助している。利用者は、歌を歌ったり、職員との会話を楽しむなど、思い思い入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や家族の希望等出来る限り対応する様努力している。要望や体調に合わせて居室などでいつでも休める環境を整えている。毛布や枕も慣れた物を使っていただいたり室温の調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員ひとりひとりが携わり、配薬時不明な点は主治医・看護師・薬剤師等に確認しながら薬の内容を把握、変更や注意点などがあれば頃く記載と申し送り等を徹底している。症状の変化があれば、提携病院にすぐに相談できる連携ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・洗濯物干しやたたみ・新聞折り・雑巾縫い等手伝っていただいている。入居者様は役に立つ喜びを感じ逆にお礼を言われる方もいらっしゃる。季節ごとの行事や外出も企画しご家族様と共に楽しむ時間を共有している。参加の有無の強要はしないよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節・娯楽を楽しむよう季節ごとに企画、ご家族様を交え楽しく過ごしていただいている。近所を散歩したりのんびり日向ぼっこをしたり、時には車にて外出する企画も取り組んでいる。	利用者の体調や天候にあわせて、ホーム周辺の散歩や日光浴を実施している。利用者の海を見たい、買い物に行きたいなど個別の外出希望を叶えるために、職員はシフトを調整し、外出を実施している。介護度が高くなり、全員での外出ができないこともあるが、花見や夏祭り、敬老会など可能な限り外出し、みんなで楽しんでいる。	

グループホーム星取

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方のみ自室にて所持しているが、大金にならないようご家族・本人に説明している。外出先などで本人の好きな物を購入できるよう取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればいつでも電話出来る環境の提供に配慮している。またご家族と年賀状のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階であるため日当たり良好、カーテンによって遮光の調節ができる。温度は窓の開閉やエアコン、床暖房で調節。季節ごとの飾りつけや生け花、また、窓からは木々や畑、季節の花や働く人なども見られ季節をまじかを感じる事ができる。	リビングには、生け花や飾り物、また2階の窓からは木々や風景が見渡せ、季節が感じられる。遮光カーテンで光調節、床暖房や空調を管理し、利用者が快適に過ごせるよう努めている。利用者は、職員や他の利用者と談笑したり、テレビを鑑賞したりゆっくりと過ごしている。職員による毎朝や適時の清掃で、臭気もなく清潔な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同志同じテーブルの相席にし、食事中など自然にコミュニケーションがとれるよう取り組んでいる。一人で居たい方はテレビ前のソファに移動したり自室で過ごされたりしている。娯楽の時間としてテレビ周辺にも椅子を設置、入居者様がつどい、仲良くテレビ鑑賞しやり談話したり出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物等をホームの居室でも使用していただき自宅で過ごされている雰囲気味わっていただいている。箸・茶碗は自分のものを使っていたいでいる。	居室入口は本人や家族写真で飾り、災害時の誘導方法を記している。本人が混乱しないよう、使い慣れた調度品を使用し、加湿器やテレビ、位牌など自由に配している。家族は、連絡帳や訪問看護日誌にて利用者状況を確認できる。職員による週1回のシーツ交換、毎日の清掃、温度管理によって、清潔で落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の望む居室作りを心掛け、安全安楽な環境の居室、フロア作りを目指し、ご家族の協力を得ながら職員で話し合い、実践している。		